



Yota KATO

ASHITA

poem by Nankichi NIIMI

for Mixed chorus, a cappella

「明日」 Ashita

～無伴奏混声合唱のための～

詩 新美南吉

曲 加藤洋太

The Original Text



新美南吉 (1913-1943)

明日

花園みたいにまつてゐる。

祭みたいにまつてゐる。

明日がみんなをまつてゐる。

草の芽、

あめ牛、てんと虫。

明日はみんなをまつてゐる。

明日はさなぎが蝶になる。

明日はつぼみが花になる。

明日は卵がひなになる。

明日はみんなをまつてゐる。

泉のやうにわいてゐる。

らんぶのやうに点つてゐる。

あし た
加藤洋太 明日 - 無伴奏混声合唱のための -

この作品は、混声合唱団「ヴォーチェ アルス」からの委嘱により2023年3月に作曲し、その後12月に改訂を施して完成を見たものです。

演奏会のアンコールで取り上げて頂く予定だったため、聴いて下さった方々が幸せな気持ちでそっと満たされるような音楽を作りたいと考えていました。そんな時に出会ったのが、国語の教科書でもおなじみ『ごんぎつね』の作者として有名な童話作家 新美南吉（にいみ・なんきち）さんの『明日』という詩。

雑誌「赤い鳥」に投稿された作品で、驚くべきことにこの時彼はまだ19歳でした。牧歌的な風景の中、温かい言葉に包み込まれていくような優しい作品ですが、行間には希望への情熱や、清らかな祈りのようなものも感じさせます。合唱の力をお借りしてこの作品の魅力を紹介したいと思い立ち、すぐに筆を執りました。

新美南吉さんは短命で、結核により30歳の誕生日を待たずに夭折してしまっていますが、生前遺した多くの傑作は今日まで変わらず愛され続けています。彼のこともっと知りたくなり、詩集と童話集を読み、愛知県半田市にある記念館（新美南吉記念館）も訪ねました。彼の作品には故郷の自然や人々の暮らし、人生の喜び・悲しみが多く描かれています。作家としてとても聡明で知的な面を持つ一方、時折覗かせる純朴さ、優しさは南吉さんの素顔であるようにも思えます。

記念館のそばには小さな山、菜の花畑、彼岸花咲く矢勝川の素朴な景観が保たれており、訪れた人を優しく迎えてくれます。南吉さんが愛したかつての岩滑の風景も思い、私の作ったささやかな音楽もその一部になれば、と願っています。

2024年4月某日 加藤洋太

委 嘱 Voce Ars（ヴォーチェ アルス）

初 演 2024年4月14日／としま区民センター・小ホール
《ヴォーチェ アルス - ア・カペラの響き - 》
指 揮：小濱 明

あした
明日

— 無伴奏混声合唱のための —

新美南吉 詩

加藤洋太 曲

©2023 Music by Kato,Yota

A

Moderato ♩ = 84 ca.

mp

SOPRANO

はな ぞの みたいに まっている u — — —
Ha-na - zo-no mi-ta-i ni ma - tte-i-ru

mp

ALTO

o — — — まつりみたいに まっている
Ma-tsu-ri mi-ta-i ni ma - tte-i-ru

mp

TENOR

o — — — o — — —

mp

BASS

o — — — — — — — — o — — — — — —
div.

6

mf *mp*

あ し た が み ん な を ま っ て い る
A - shi - ta ga mi - n - na o ma - tte - i - ru

cresc. *mf* *mf* *mp*

u — — — — — — — — u u u

cresc. *mf* *mf* *mp*

u — — — — — — — — u u — —

cresc. *unis.* *mf* *mp*

u — — — — — — — — u — — — — — — — — u